

学校評価総括表

令和4年度重点目標

- 1 一人ひとりを大切にする学級・学部・寄宿舍・学校運営
- 2 児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動
- 3 自立と社会参加につながるキャリア教育
- 4 健康・安心・安全な学校づくり
- 5 家庭・地域・関係諸機関との連携・協働
- 6 組織的な学校運営

令和4年度学校評価総括表

重点目標 (1) 一人ひとりを大切にする学級・学部・寄宿舎・学校経営

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画
ポジティブな行動を増やす支援を学校全体で行うスクールワイドPBSの考え方の浸透 【研究課】	(1) 特別支援学校コンサルテーション事業を活用し、各学部の特定の学年団(チーム)においてポジティブな行動支援の取り組みを実践する。	評価指標 (1) - 1 6月に学部ごとにポジティブな行動支援研修会もしくは要請訪問による研修会を実施する。 (1) - 2 チームで指導・支援に取り組めるように、各事例のケース会を年間5回以上実施する。 (1) - 3 各事例について、コンサルテーションを年2回ずつ実施し、専門家から助言を受けられる機会を設定する。 (1) - 4 学部会やJoruri 掲示板を活用して年間4回以上報告会を実施し、学校や学部で共通理解を行う。 (1) - 5 県教委主催の2月の実践報告会(Zoom)において、1つ以上の実践を発表し、全職員が参加する。
		活動計画 (1) - 1 学部長と相談し、実践する学年を決め、研修会を実施する。高等部の研修会は、職員希望研修とし、参加を募る。 (1) - 2 各学部の校内担当リーダーが日程調整を行い、ケース会の計画立案、司会進行、記録などを実施する。 (1) - 3 県の担当者と連絡調整し日程を決め、実施計画書を作成する。専門家来校時は、案内係や事例検討会の進行係を行う。 (1) - 4 学部長と相談し、コンサルテーション後の学部会において、実践者から指導の経過を説明する機会を設ける。Joruri 掲示板に、実践の経過がわかるPPTをアップする。 (1) - 5 実践報告会で、どの実践を発表するか県教委と検討する。職員全体研修会に位置付け、校内に周知し全職員で参加する。
自己肯定感や自尊感情、お互いを思いやる気持ちの育成 【人権・生徒指導課】	(1) 中学部・高等部の生徒に対して、お互いを思いやる気持ちを育成するための指導を行う。	評価指標 (1) - 1 中学部・高等部の生徒に対して、生徒同士が気持ちよく学校生活が送れるように、学部集会の際に、生徒指導または人権教育に関する講話を年6回上行う。
		活動計画 (1) - 1 中学部・高等部に所属している生徒指導担当教員または人権教育担当教員がそれぞれ学部集会の時に、「お互いを思いやる気持ち」に関する内容の講話を年間6回以上行う。
いじめ防止基本方針に基づく予防教育の実践と組織的対応 【人権・生徒指導課】	(1) いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの防止に努める。 (2) いじめの早期発見、早期対応につながる取組を推進する。	評価指標 (1) - 1 インターネットやSNSなどの使用に関するモラル(プライバシー保護など)教育を年1回以上行う。 (1) - 2 いじめ防止に関する生徒の自主的な活動の機会を年1回以上設定する。 (2) - 1 「いじめアンケート」を年2回以上行い、いじめへの早期発見・早期対応を行う。
		活動計画 (1) - 1 少なくとも年間1回以上、「携帯電話使用教室」(中学部・高等部の生徒対象)を行い、そのときに、インターネットやSNSの使用によって生じるいじめについて言及する。 (1) - 2 高等部の部活動である「ふれあいボランティア部」の活動として実施する。 ①「いじめの防止ポスター」の作成・掲示 ②校内の美化活動 ③書き損じはがきや古切手等の回収

		<p>中学部の「いじめ防止子ども委員会」での活動として ①挨拶運動（年間2回） ②いじめの防止活動（年間2回）を実施する。</p> <p>(2) - 1 全校児童生徒を対象に、年間に少なくとも2回「いじめアンケート」を実施し、その結果を受けて担任教員を中心に、各学部の生徒指導担当教員、学部長で対応する。さらに管理職を含め、全学部長、生徒指導主事、人権教育主事等で組織的に対応する。</p>
<p>人権意識に基づく児童生徒指導の徹底</p> <p>【寄宿舍】</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を身につけるため、目標を舎生と一緒に考え、主体的に取り組むことができるように支援する。</p> <p>(2) ポジティブな行動を増やす支援を学び、舎生一人ひとりを尊重する意識を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 アセスメントを基に、グループ担任で話し合い、達成可能な生活目標を検討する。</p> <p>(1) - 2 保護者の希望を考慮し、学級担任と連携して、指導・支援を行う。</p> <p>(1) - 3 舎生に現在の生活状況を伝え、舎生自らが主体的に意欲を持って取り組めるような目標を立てる。</p> <p>(1) - 4 目標の内容、経過及び達成状況を保護者に伝える。</p> <p>(2) - 1 ポジティブな行動支援について、指導員全体に共通理解を図る。</p> <p>(2) - 2 舎生の現状を観察し、指導目標や指導の仕方を決定し、舎生と目標を共有する。</p> <p>(2) - 3 取組の成果を舎生に目で見てわかるようにフィードバックする。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 5月中にグループ担任で、舎生一人ひとりの生活目標について話し合う。</p> <p>(1) - 2 寄宿舍生連絡会を行い、共通理解を図る。(年間2回予定)</p> <p>(1) - 3 グループ担任で話し合った目標の中から、個々に合った目標を、舎生と一緒に決める。</p> <p>(1) - 4 寄宿舍連絡帳または口頭で保護者に連絡する。</p> <p>(2) - 1 ポジティブな行動支援について、指導員研修を受ける。舎生に付きたい力や課題について指導員間で話し合う。</p> <p>(2) - 2 望ましい行動が ocorrênciaやすい環境設定をする。</p> <p>(2) - 3 行動の変化をグラフ化や数値化することで、舎生たちが自分たちの成長を目で見て理解できるようにする。</p>

重点目標 (2) 児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画
<p>児童一人一人の実態に応じたわかりやすい授業実践と授業改善</p> <p>【小学部】</p>	<p>児童一人一人の障がい特性に応じた支援のあり方を外部専門家の助言を参考に検討し、学部や学年で、共通理解を図り、学部全体で取り組んだり、成果を共有したりする。</p> <p>(1) 個別の課題において、実態に応じた目標と指導の手立てを立案、実践し、その成果を学部全体で共有する。</p> <p>(2) 集団で取り組む「体力づくり」をテーマに各児童の発達段階と課題、目標について、共通理解を図り、チームアプローチで学習計画、実践、改善を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 個別の課題 2 事例以上について外部専門家の指導、助言を受けながら、指導計画を立案し、実践する。</p> <p>(1) - 2 2 事例について年間 2 回以上のケース報告会を実施し、学年または学部全体に還元する。</p> <p>(2) - 1 集団で取り組む「体力づくり」について外部専門家の指導、助言を受けながら、指導計画を立案し、実践する。</p> <p>(2) - 2 「体力づくり」における集団での取組について年間 3 回以上の検討会を実施し、チームアプローチで取り組む。</p> <p>(2) - 3 取組について、報告会を 2 回以上実施し、学部全体に還元する。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 実践する 2 事例以上を 4 月末までに抽出する。抽出した事例において、外部専門家の指導、助言を 2 回以上受け、実践する。</p> <p>(1) - 2 8 月、2 月に学部または学年でケース報告会を実施し、事例の成果を共有し、全体に還元する。</p> <p>(2) - 1 7 月、1 月に外部専門家より取組についての指導、助言を受け、計画、実践、改善する</p> <p>(2) - 2 6 月に取組についての研修と検討会を学部全体で実施する。必要に応じて該当教員集団で検討会を実施し、共通理解のもと実践する。</p> <p>(2) - 3 9 月、2 月に指導経過と成果報告会を実施し、学部全体に還元する。</p>
<p>中学部・高等部の生徒会行事の立案時において、積極的に関わる態度を養う。</p> <p>【特別活動課】</p>	<p>(1) 生徒会行事の立案時に、自分の意見や考えを伝えることができる。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 中学部・高等部の生徒会役員会において、行事の立案時に、自分の意見や考えを 1 回以上発表し、意見が反映された活動が 3 回以上できる。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 各学部ごとに生徒会活動の立案を行う。立案の際に、生徒の意見を取り入れる項目を準備する。</p> <p>(1) - 2 生徒の意見が十分反映されるよう、課員で修正・調整を行い実践可能な計画に整える。</p>
<p>ICT 学習のための環境整備</p> <p>【情報教育課】</p>	<p>(1) 校内の情報機器を調査し、校内で貸し借りができるよう見直す。</p> <p>(2) 児童生徒の学習に必要なアプリの精選を行い、導入を検討し導入を依頼する。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 校内の情報機器 (ICT 活用の為の機器) を整理する。</p> <p>(1) - 2 使用したい学部へ貸し借りができるよう帳簿を作成する。</p> <p>(2) - 1 アプリの活用状況を調査する。</p> <p>(2) - 2 導入希望が出たアプリの精選を行い、導入の検討をする。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 校内の情報機器を調査する。(8 月)</p> <p>(1) - 2 一覧にし、学部を越えて貸し出せる台帳を作成する。(9 月)</p> <p>(1) - 3 一覧を Joruri に掲示し貸出を開始する。(9 月)</p> <p>(1) - 4 必要な機器があれば購入を検討する。</p> <p>(2) - 1 授業で使用しているアプリを調査する。(6 月)</p> <p>(2) - 2 アプリの希望を聞く。(7 月)</p> <p>(2) - 3 希望が出たアプリの精選を行い導入を検討する。(8 月)</p> <p>(2) - 4 アプリ導入の依頼をする。(8 月)</p> <p>(2) - 5 アプリの活用を開始する。</p>

重点目標 (3) 自立と社会参加につながるキャリア教育

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画
適切な進路を自己決定できるような環境を整える。 【進路指導課】	(1) 就職を希望する生徒が自分の適性、職業能力を客観的に把握し、希望する産業や職業へ反映させる。 (2) 福祉就労については生徒の発達段階や特性を把握するとともに事業所や地域の情報を精査し、拡大進路相談までに概ね進路を決定する。	評価指標 (1) - 1 10月までに希望する産業および職業を決定する。 (1) - 2 就職を希望する生徒の就職率を100%とする。 (2) - 1 高等部1・2年生の発達検査等が必要な約2割の生徒について、客観的なデータを収集する。 (2) - 2 高等部2年生において拡大進路相談までに就業体験希望のある福祉サービス事業所での就業体験を一人2回実施する。
		活動計画 (1) - 1 就職レディネステストやチェックリスト等を実施し、自己理解を進めた上で進路決定ができるまで進路相談を実施する。 (1) - 2 ハローワークや就業・生活支援センター、教育委員会等と連携を図り、就職面接会などのあらゆる機会を捉え、就職先とのマッチングを進めていく。 (2) - 1 太田のステージやTTAP（就労移行アセスメントツール）を進路課で必要とした生徒について実施する。 (2) - 2 就業体験や見学希望のある事業所に事前に訪問し、スムーズに就業体験が実施でき、移行が図られるよう情報交換を行う。

重点目標 (4) 健康・安心・安全な学校づくり

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画
健康・安心・安全な学校づくり 【安全課】	(1) 発達段階に応じた安全教育・防災教育の実施	評価指標 (1) - 1 地震・火災・洪水等の避難訓練の目的、年間計画について検討し計画を立案し、学校改築に伴う避難スペースの確保や人数を調整しながら年間3回(火災は2回)以上取り組むことができる。 (1) - 2 不審者対応の教職員研修を行う目的や計画案を立て、徳島名西警察署の協力・指導を受けながら教職員の参加率7割以上で実施することができる。 (1) - 3 希望研修とし、教職員防災研修を夏休み中までに4割以上の参加率で実施することができる。
		活動計画 (1) - 1 5月に担当者から消防署へ協力を依頼する。天候等により予備日になった場合、消防署の協力が得られない場合の代替案も準備しておく。Jアラートを活用する、しない場合の機材を準備する。どのような形で、どこへ避難する等も計画する。 (1) - 2 6月から7月の間に実施計画を立てる。実施計画に基づいて警察署へ協力を依頼する。希望研修とし、7割以上の参加率で実施することができる。 (1) - 3 6月中に実施計画を立て、防災センターへ協力を依頼する。時期を考慮し、エアコンが使える場所で実施する。

重点目標 (5) 家庭・地域・関係諸機関との連携・協働

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画
<p>中学部の学習活動において、地域の人材を活用した取組を推進する。</p> <p>【中学部】</p>	<p>(1) 中学部の授業において地域の人材を活用した授業(藍の学習)を計画実施する。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 学年主任・藍の学習学年担当で中学部における藍の学習の目的、年間計画等について検討し計画案を立案する。</p> <p>(1) - 2 藍の栽培・藍染め等を行っている地域の人材の決定、学習活動への年間の協力依頼、授業参加の連絡調整等を行い、連携を図る。</p> <p>(1) - 3 地域の人材を活用した授業に年間 30 時間以上取り組むことができる。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 5月に担当者の検討会を計画実施し、藍の学習担当者に計画案の作成を依頼する。</p> <p>(1) - 2 6月に人材を決定し、【①校内の授業計画→②担当者から1年間授業計画の説明および授業協力の連絡調整→③校内の授業改善】のサイクルで地域の人材と協力連携する。</p> <p>(1) - 3 藍の栽培・染色等に関して6～7月、10～12月で授業を計画実施する。</p>
<p>ダイバーシティのモデル校として地域一体型のキャリア教育を進めるための新たな教育内容を考える。</p> <p>【高等部】</p>	<p>(1) ふらっと KOKUFU と地域連携した教育活動の実施計画を構築する。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 授業担当者、進路課と活動内容(農作業・食品加工等)について検討し立案する。</p> <p>(1) - 2 ふらっと KOKUFU と連携した授業実現を、週4時間以上実施する。</p> <p>(1) - 3 全ての学年において、地域連携を実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 4月に担当者会を実施し、ふらっと KOKUFU と連携した教育活動について話し合う。</p> <p>(1) - 2 月毎にふらっと KOKUFU の担当者と授業担当で計画を時期に応じて立てる。</p> <p>(1) - 3 各学年の授業内容(作業学学習A・B、生活単元学習、校内実習等)を洗い出し、一覧表を作成し学年間で連携を図るようにする。</p>
<p>PTA 活動や教育活動の適切な情報発信</p> <p>【渉外課】</p>	<p>(1) 「開かれた学校」に向けて、PTA 活動や教育活動の情報発信を行い、保護者や地域との連携の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 PTA 活動について、年に3回以上、HP で発信する。</p> <p>(1) - 2 情報機器等を活用した PTA 活動 (Web 研修会等) を年に3回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 PTA 行事等の写真を撮って、活動の様子を HP に載せたり、PTA 活動に関する情報を発信したりする。</p> <p>(1) - 2 Web やオンラインを活用した研修会や会合について、案内する。</p>
<p>センター的機能の充実及び地域の学校等との連携</p> <p>【地域支援課】</p>	<p>(1) センター的機能を発揮し、地域の学校等の状況把握に努め、支援の手立て等の情報を伝える。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1) - 1 コロナ対策に対応した学校見学や公開研修会を通じて、地域の学校等の状況把握を行い、教育相談や支援の一助へとつなげる。</p> <p>活動計画</p> <p>(1) - 1 年度当初に地域の教育機関等に向けて本校の相談業務を紹介する。</p> <p>(1) - 2 保育所や学校等のニーズに対応し、巡回相談を行う。(通年)</p> <p>(1) - 3 公開研修会参加者や学校見学実施の就学希望者へ巡回相談を案内する。</p> <p>(1) - 4 学校 HP 上で教材や指導の手立て等について情報発信する。</p>

重点目標 (6) 組織的な学校運営

重点課題	重点目標	評価指導と活動計画						
情報資産管理表に基づく個人情報や文書管理の徹底 【教務課】	(1) 情報資産管理表に掲載されている文書やファイルの保存期間を遵守し、フォルダー内のファイルや教務課用キャビネットの文書等を整理する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="633 226 783 259">評価指標</th> <th data-bbox="783 226 1468 259"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="633 259 783 376">(1) - 1</td> <td data-bbox="783 259 1468 376">教務課のフォルダー内にある、情報資産管理表に示されている保存期間を過ぎたファイルや不必要な文書等を整理し、全体の容量を8.5ギガから6ギガ以下(3割減)にする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="633 376 783 499">(1) - 2</td> <td data-bbox="783 376 1468 499">教務課用キャビネットにある保存期間を過ぎた文書や不要な文具を整理整頓し、8台あるキャビネットを7台分の容量にする。</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標		(1) - 1	教務課のフォルダー内にある、情報資産管理表に示されている保存期間を過ぎたファイルや不必要な文書等を整理し、全体の容量を8.5ギガから6ギガ以下(3割減)にする。	(1) - 2	教務課用キャビネットにある保存期間を過ぎた文書や不要な文具を整理整頓し、8台あるキャビネットを7台分の容量にする。
		評価指標						
(1) - 1	教務課のフォルダー内にある、情報資産管理表に示されている保存期間を過ぎたファイルや不必要な文書等を整理し、全体の容量を8.5ギガから6ギガ以下(3割減)にする。							
(1) - 2	教務課用キャビネットにある保存期間を過ぎた文書や不要な文具を整理整頓し、8台あるキャビネットを7台分の容量にする。							
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="633 499 783 533">活動計画</th> <th data-bbox="783 499 1468 533"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="633 533 783 589">(1) - 1</td> <td data-bbox="783 533 1468 589">6月と7月の課会で教務課の情報資産について資料を提示し、整理の方法や手順を話し合う。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="633 589 783 712">(1) - 2</td> <td data-bbox="783 589 1468 712">長期休業を中心に、1月末までに教務課フォルダーと教務課用キャビネットを整理し、9月以降の課会で2回、整理の状況を確認する。</td> </tr> </tbody> </table>	活動計画		(1) - 1	6月と7月の課会で教務課の情報資産について資料を提示し、整理の方法や手順を話し合う。	(1) - 2	長期休業を中心に、1月末までに教務課フォルダーと教務課用キャビネットを整理し、9月以降の課会で2回、整理の状況を確認する。		
活動計画								
(1) - 1	6月と7月の課会で教務課の情報資産について資料を提示し、整理の方法や手順を話し合う。							
(1) - 2	長期休業を中心に、1月末までに教務課フォルダーと教務課用キャビネットを整理し、9月以降の課会で2回、整理の状況を確認する。							